

暮らしの瓦版

2010年04月号

地球にやさしい・快適「エコ住宅」(1)

最近よく耳にする「エコ住宅」。

省エネルギーのための設備・施工を施し、CO2の排出削減や光熱費ダウンを実現する住宅をいいます。3月8日には住宅エコポイントの受付も開始されます。益々、ニーズが高まるであろうエコ住宅。どんな特徴があるのか、メリットがあるのか学んでみましょう。



【高機密・高断熱】住宅の気密を高めることで、住宅から放出する熱を最小限に抑える「高気密・高断熱住宅」。外気温に影響されず、わずかなエネルギーで室内を快適な温度に保つので、冷暖房費の節約になります。また、湿気やカビの発生を防ぐ効果もあるので、住宅そのものが長持ちするメリットも。さらには、気密性の高い家では換気計画も立てやすく、家中の空気がいつも新鮮で健康的。つまり、高気密・高断熱住宅は、経済的で、建物にも住む人にも優しい住宅なのです。

【太陽光発電】太陽光発電とは、文字通り「太陽の光エネルギーを用いて、電気に変換する」発電方式で、エネルギー源の確保が簡単で、地球にもやさしいのが特徴です。自宅で使う電気を自宅で作るので電気代の節約になるのはもちろん、余った電気を電力会社に買い取ってもらうこともできます。2009年10月までの買い取り金額は約24円/kWhでしたが、2009年11月より「太陽光発電の新たな買い取り制度」がスタートしたため、およそ倍の48円/kWhで電力会社に買い取ってもらうことができます。しかも、この太陽光発電システム設置に対して補助金を出している自治体も多く注目が高まっています(支援内容も自治体により異なります)。

【オール電化システム・エネファーム】オール電化住宅とは、住まいで使用するエネルギーを電気でもかなう住宅のこと。CO2削減に貢献できる、まさに「エコ住宅」です。またガス・石油を室内で使用しないため、空気をクリーンに保つことができ、高気密・高断熱住宅と相性が良いとされています。また最近の注目は「エネファーム」。こちらはガスから水素を取り出して発電するシステムで、発電時に発生する熱を利用してお湯を作ったり暖房に使うことができ、効率的にエネルギーを利用するというのも。こちらも地球の資源を無駄にしない「エコ住宅」といえるでしょう。

季節の風物詩「イースター」



イースターはキリスト教の典礼暦における最も重要な祝い日で、十字架にかけられて死んだイエス・キリストが三日目によみがえったことを記念し「復活祭」といわれます。正教会では「イースター」よりも「パスハ」の呼称の方が好まれます。基本的に「春分の日の後の最初の満月の次の日曜日」に祝われるため、年によって日付が変わる移動祝日ですが、年により東・西教会で異なる日付である場合が多いのですが、今年も西方教会も東方教会も同日で4月4日です。

生活×モト

季節の行事 『日本のまつり』四月』

4月は各地で春まつりが行われますが、春に行われる大きなお祭り3つを紹介致します。日本の伝統が息づく地域のまつりに出掛けてみてはいかがでしょうか。



長浜曳山まつり(4月13日・16日)滋賀県長浜市。国の重要無形民俗文化財に指定されていて、日本三大山車祭のひとつでもあります。このまつりは豊臣秀吉公が長浜を治めたときから始まり、後三条天皇が命じて石清水八幡宮を分祀勧請したといわれています。由来書によると、秀吉公が源義家の「後三年の合戦」の凱旋の様子をあらわした「太刀渡り」を町年寄十人衆に行わせたのが八幡宮の祭礼の始まりと記されています。その後、秀吉公が男子誕生の祝いに町人へ若干の砂金を贈り、これを原資に町人たちが曳山を造営し、八幡宮の祭礼に曳いたのが「長浜曳山まつり」の始まりといわれています。絢爛豪華な山車は「動く美術館」ともいわれます。江戸時代に入ると、曳山の舞台で子ども歌舞伎が演じられるようになり、5歳から12歳くらいの男の子が衣装に身を包み、歌舞伎を演じ、まつりの一番の見どころになっています。

春の高山祭(4月14日・15日)岐阜県高山市。高山祭は、春の山王祭(日枝神社)、秋の八幡祭(桜山八幡宮)の2つの総称で日本三大美祭のひとつとされ、日本三大山車祭のひとつにも上げられ、その祭礼行事は国の重要無形民俗文化財にも指定されています。高山に春の訪れを告げる「山王祭」は、旧高山山下町南半分の氏神様である日枝神社(山王様)の例祭です。祭の舞台となる安川通りの南側・上町には、「山王祭」の屋台組の宝である屋台12台が登場。この12台の屋台の華やかな巡行が見どころで、うち3台がからくり奉納を行うほか、祭行事では賑やかな伝統芸能も繰り広げられます。そして14日の夜には曳き別れと呼ばれる夜祭があります。

古川祭(4月19日・20日)岐阜県飛騨市古川町。古川町にある気多若宮神社の例祭で天下に奇祭とうたわれた勇壮な「起し太鼓」ときらびやかな「屋台行列」で知られる祭で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。メインイベントは19日の深夜。「起し太鼓」では、19日夜、直径80センチの大太鼓が打ち鳴らされながら古川の町を巡回し、それを進路で待ち受ける付け太鼓(小さな太鼓に担ぎ棒をつけたもの)を持った若者たちとの激しい攻防戦が深夜まで続きます。祭りに参加する男たちは、半股引にさらし巻きに白足袋、白鉢巻の正装をしているので、裸祭りといわれることもあります。屋台曳き揃えは、2日間とも行われ、町内の屋台組が大事に守ってきた9台の豪華な屋台を間近に見ることが出来ます。どの屋台も木彫り、塗り、「見送り」といわれる掛け軸状の絵など全てが素晴らしい芸術品です。からくり人形がある屋台が2台、子供歌舞伎を行う屋台が1台あります。高山祭の影響を受けたとも言われています。

生活×モト

季節の言葉 『平城遷都一三〇〇年』



今年、平城京が710年に奈良の地に誕生して1300年目にあたります。奈良県では、この「平城遷都1300年」を機に「日本のはじまりの奈良」を合言葉として、日本の歴史文化を世界に発信し、21世紀の地球社会にふさわしい平和で豊かな文化の創造に資すると共に東アジアをはじめ世界各地との交流の拡大を図り、活力と創造性に満ちた社会をつくることを目的に「平城遷都1300年祭」を開催。期間中、平城宮跡をはじめ、奈良県内外で関連イベントが行われます。平城京跡は4月24日にオープンし、11月7日まで平城遷都1300年記念事業のメイン会場として宮跡内の施設と連携し、歴史文化が体験できるイベントや展示、各種フェアなどが開かれます。正式なマスコットキャラクターは「せんとくん」。未だに賛否両論ありますが、様々な騒動で知名度は逆に上がり、人気も出てきています。

平城京遷都は、国家としての基本的枠組みが確立された奈良時代の幕開けであり、我が国の歴史において重要な節目のひとつであるといえます。70年に日本初の本格的な律令である「大宝律令」が制定され、以後この律令に基づき国家運営がなされました。日本最古の歴史書「古事記」や正史「日本書紀」が編纂されたのもこの時期です。また、唐の影響を強く受けるとともに、大陸との交流を通して、インド・ペルシャ・アラビアなどユーラシアの各地から様々な文化を取り入れた国際色豊かな天平文化が平城京を中心に花開いた時代でもありました。

メイン会場となる平城宮跡には当時の建物群が復元されています。そのひとつ大極殿は、平城宮の最も重要な建物であり、天皇の即位式や元日の朝賀のような国家的儀式に使われました。4月には復元完成記念式典が行われます。平城宮の正門である朱雀門は、元日や外国使節の送迎の際に儀式が行われていました。こちらは既に1998年に復元が完了しています。10月には大極殿正殿前庭を会場に天皇などを招き、平城遷都1300年記念祝典が開かれます。今年も古都・奈良の一大イベント年です。

リ・コール=再呼集

リコールとは、消費生活用品に事故発生の可能性や欠陥があった時、事業者が公表して製品を回収・交換・修理を行うことをいいます。事業者は事故の発生段階又は事故の兆候を発見した段階で事故の発生や拡大の可能性を最小限にするため、自主的に迅速かつ的確なリコールを実施しなくてはなりません。消費者の安全確保、事業者の法令遵守の観点からリコールは当然の責務です。例えば今問題になっている自動車のリコールの場合、機械的な問題点をもっと考えられる車体を回収し、点検・整備・修理等を行い、その費用は事業主が持ちます。改善処置を施した車体には改善処置済ステッカーが貼られ、これがないと車検には通りません。事業主の迅速かつ徹底した情報開示、誠実な対応が今後の企業評価にも繋がります。

修繕 リフォームから新築工事の建物の事
 優良土地活用から物件探索の土地の事
 北本建設株式会社
 埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234
 URL: http://kitamoto.net/kitaken/ FAX: 048-591-0019

4月 暮らしのカレンダー

陰月、卯月、卯花月、乾月、建巳月、木葉採月、鎮月、夏初月、花残月、植月

1日	エイプリルフール	8日	花祭り(灌仏会)
4日	復活祭(イースター)	17日	土用・春土用
5日	清明	20日	穀雨
7日	世界保健デー	29日	昭和の日